



援助をカタチに

一般財団法人 **日本国際協力システム**

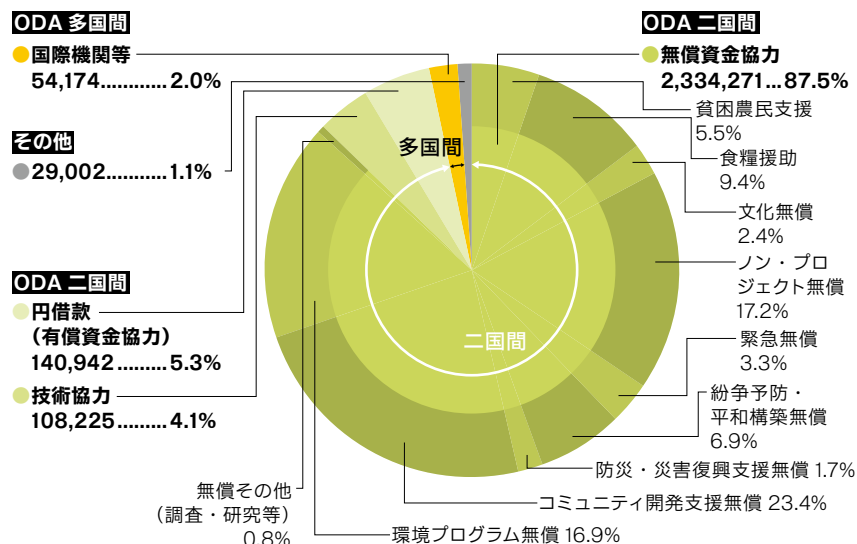
一般財団法人日本国際協力システム（JICS）は、日本の政府開発援助（ODA）や各種の開発途上国支援において、調達業務および管理業務などを行う、日本で最初の調達専門機関です。

「調達」とは、特定の目的を達成するために必要な資機材や役務（輸送・設計・施工などの業務）を対価を支払って入手することです。JICSは1989年の設立以来、現地で必要と

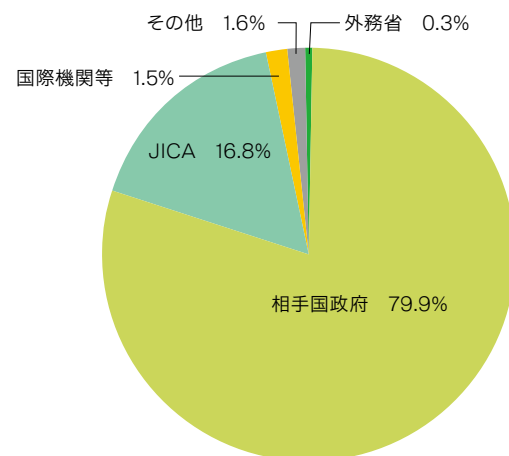
されている資機材や役務を適正かつ効果的に選定・調達しています。

組織の指針「MVV」の中でJICSは「VISION」として掲げる「国際協力分野における世界最高水準のサービスを提供できる集団」を目指し、知識の蓄積やノウハウの習得、および人材の育成に努めています。

● 援助形態別収益実績（2012年度）（単位：千円）



● 契約先別事業収益実績（2012年度）



一般財団法人への移行を機に、JICSにおけるすべての戦略の根源的な原点として、職員一人ひとりへの浸透を重視し、組織全体での議論を通じたボトムアップにより決定しました。

MISSION

私たちは、国際協力分野における
プレーヤーとして、国際社会の
平和と安定に貢献します。

VISION

私たちは、国際協力分野における世界最高水準の
サービスを提供できる集団を目指します。

VALUE

中立性、公正性、透明性
中立的な立場を維持し、
公正性・透明性を確保します。

信頼性
現場の声に耳を傾け、
クライアントとの信頼を
築きます。

援助の効果
援助の効果が最大限に
活かされるよう努力します。

創造と挑戦
既成概念にとらわれず、
新たなサービスを創造し、
提供することに挑戦します。

MISSIONとは？

JICSの使命・社会的存在意義・貢献の想いです。
JICSで働くすべての職員が、常に「MISSION」を胸に
責任感とプライドを持って日々の業務に取り組みます。

VISIONとは？

「MISSION」を、JICSが目指す中期的な目標として表
現したものです。現状に満足することなく、「VISION」
の達成に向けて、日本のみならず世界からも一層、信
頼される組織となるべく研鑽します。

VALUEとは？

「VISION」を達成するためにJICS職員一人ひとり
が遵守すべき価値観であり、すべての職員が4つの
「VALUE」に基づいて行動します。



代表理事あいさつ
新規事業の開拓と組織の強化で、外部環境の変化に対応

02



特集 非営利型一般財団法人への移行から1年

「挑戦する組織」
への変革を推進中

04

JICSとODAを取り巻く環境 08

ODAと JICS



09

JICS 2012年度の主な取組み

被災地支援に寄与するノン・プロジェクト無償
(パプアニューギニア)



13

環境プログラム無償案件
「太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画」
(ヨルダン・コスタリカ)



14

コミュニティ開発支援無償
(ブルキナファソ)



17

貧困農民支援案件
(ブータン)



19

ステークホルダーコメント 21

JICSの動き 22

JICSの主要事業対象国 26

スキーム別・契約先別事業収入/収益実績 28

機能別事業収入/収益実績 29

援助形態別事業収入/収益実績の推移 30

年度別収支/経常増減の推移 31

2012年度国別主要実績 32

2012年度案件 35

無償資金協力関連事業 35

技術協力関連事業 43

借款関連事業 45

国際機関等事業 45

フォローアップおよびアフターケア活動 45

国際協力事業推進のための啓発・支援活動 45

その他本財団の目的を達成するために必要な事業 46

2012年度 事業報告 47

2012年度 貸借対照表 48

2012年度 正味財産増減計算書 49

沿革 50

役員・評議員 51

組織図 52

一般財団法人日本国際協力システム 定款 53

コンプライアンス 56

第1部・・・2012年度の活動から

第2部・・・事業実績

参考資料

新規事業の開拓と組織の強化で、外部環境の変化に対応

2012年度は、一般財団法人としての初年度を迎えたと同時に、新たな中期事業アクションプランの初年度にあたり、私たち日本国際協力システム（JICS）にとって「第二の創設期」と位置付け、組織運営と事業の実施に取り組んできました。

組織運営に関しては、

- (1) 組織マネジメントの一層の強化を目指し、
- (2) 改革への取組みに対する意識の浸透に努め、
- (3) 組織改編の効果について監査を行い、確認された問題点へ速やかに対応するべく、

2013年7月には一部の部門について改めて改編を行いました。その結果、2室5部18課体制から6室4部16課体制へ移行しました。これにより、特に経営企画機能および新規事業の開拓機能の一層の強化に努めていきます。



一方、事業の実施については、従来から推進中である調達代理業務の着実な実施に加え、新規事業の開拓への取組みをこれまで以上に強めてきました。組織内部でのさまざまな検討に加え、外部の関係者の方々との協議なども、その歩みは少しずつですが進めています。

ここ数年、JICSを取り巻く環境は大きく変化し、JICSにも自ら変わっていくことが求められていると思います。

我々は変化していく外部環境に対して、自分たちが今後どのように変わっていくのか、JICSで業務に従事する者一人ひとりが真剣に考える必要があります。生物に限らず、組織も含めて環境への対応不全是深刻な結果をもたらすものと考えています。

JICSを取り巻く厳しい環境を認識しつつ、我々は2013年度の組織運営および事業実施の大方針として、

- 従来型事業の着実な実施と新規事業の獲得への取組み
- 事業規模を維持し、財務基盤の改善への取組みを強化する

を掲げました。これらに関連して、特に新規事業の開拓と組織の強化について、以下にお話をさせていただきます。

従来型事業については、品質を確保し、改善提案を行って、競争性を維持して継続して受託していくことが基本です。一方、ODA（政府開発援助）に係る予算の増加に頼りきった従来からの事業構成は好ましいものではなく、財務基盤の強化も困難となることが予想されます。

このため、発想・視点を変えて、JICSの事業領域について従来の分野から踏み出して、Public Private Partnership（官民連携）、円借款実施促進事業などの新たな領域への取組み方について勉強しなければならないと考えています。新たな事業領域への参入のためには、必要な取組み、人材育成、体制整備など課題は多々あるものと認識します。しかし、新しい事業領域に対し、強い好奇心と積極性をもって挑戦する以外に、JICSの将来展望は開けてこないと考えています。短期的な課題にのみ目を向けるのではなく、中長期的な組織展開といった観点からも具体化に努めていきます。

また、組織の強化について言えば、今後、競争環境のなかでより良いサービスを提供し、これまでとは違う新たな業務に取り組むなど、将来にわたって社会から必要とされる、世界最高水準のサービスを提供していく組織であり続けなければなりません。そのためには、個々人の能力開発に止まらず、組織全体の強みを発揮できるように、今まで以上に、組織の強化に取り組んでいく必要があると考えています。

以上のように、新規事業の開拓と組織の強化を常に意識し、強いJICSとして存在していくためにJICS職員一同、取り組んでいきます。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人 日本国際協力システム
代表理事 仲谷 徹

仲谷 徹